



バイオテックによる希少植物の増殖・保存



ミヤマハナシノブ

はじめに

屋上緑化、公園造成、カーデニングなどの景観整備において、緑化へのニーズは非常に高いものがあります。しかし、利用されている種は限定されており、また国外種も多いのが現状です。そのため、市場での新品目の需要が見込まれます。

そこで、地域特性を生かした新品目を開発するため、増殖技術を検討しました。

開発品目と増殖技術など

山梨県内に自生し、希少価値が高く、県産ブランド化の図りやすいものとして、高山植物、ミズナラ、トウヒ属樹木等を開発品目としました。今回は高山植物について紹介します。

○高山植物タカネビランジ（絶滅危惧Ⅱ類）

実生から組織培養により増殖した培養幼植物体およびマルチプルシュートを試験管内で継代培養しました。これらは増殖源として20年間試験管内で安定した維持が可能でした（図-1）。また、培養苗の順化を行い、順化苗を育成し、ポット苗として育苗しました（図-2）。これまで病虫害も認められておらず、一部については、試験植栽を実施しています。今後は、試験植栽の経過を継続して調査し、商品化へ展開します。



図-1 幼植物体での保存



図-2 培養苗の生産・開花

○高山植物タカネマンテマ（絶滅危惧ⅠB類）

無菌的に発芽させた実生から組織培養による増殖方法を開発しました。増殖した個体については試験管内で継代培養しました。これらは増殖源として10年間試験管内で維持しています（図-3）。今後は、栽培化について検討を行います（図-4）。



図-3 幼植物体での保存



図-4 開花した培養苗

○高山植物（絶滅危惧Ⅱ類）

実生から組織培養により増殖した培養幼植物体およびマルチプルシュートを試験管内で継代培養しました。これらは増殖源として試験管内で維持しています（図-5）。今後は栽培化について検討を行います（図-6）。



図-5 試験管内での培養



図-6 育成した培養苗

作成：山梨県森林総合研究所
森林研究部 育林・育種科
西川浩己

連絡先
TEL 0556(22)8001 FAX 0556(22)8002
メールアドレス sinsouken@pref.yamanashi.lg.jp